

肝属川における減災のための
取組目標(案)

過去の水災害・地域特性からみた課題

- 肝属川における大規模な災害は、昭和13年10月水害以降発生しておらず、住民の防災意識が希薄になっている。
- 肝属川流域の上流部は、高隈山地等の急峻な山地に囲まれ、上流部は河床勾配が急であり、急激に水位が上昇するため、迅速な防災情報の提供及び水防活動等が求められる。
- 堤防等の整備が進み、洪水に対する安全度は以前に比べ大幅に向上したが、大規模な出水が発生した場合、甚大な被害が発生する恐れがある。
- 堤防の多くが流水の侵食等を受けやすいシラスで構築されており、堤防の質的な安全性が低い。

取組目標（案）【肝属川】

■5年間で達成すべき目標

いつかくる大規模出水に備えて、
水害に負けない強い地域づくりを目指す。

■上記目標達成に向けた3本柱の取組

地球温暖化等の影響でいつかくる大規模出水に備えて、河川管理者が実施する河道掘削やシラス堤防質的強化対策などの洪水を河川内で安全に流す対策に加え、地域住民が自ら迅速かつ自主的に行動し被害を最小化するために、関係機関と地域住民が協力して、水害に負けない強い地域づくりを目指すため以下の取組を実施していく。

1. 地域住民が的確に避難行動を行えるように、迅速かつ的確でわかりやすい情報発信に関する取組
2. 地域住民の水防災に関する危機意識が低下しないよう、水防災学習・教育などに関する取組
3. 地域住民が安心して暮らせるよう、ハード対策や確実な水防活動が行える訓練等のソフト対策に関する取組